

「安全保障と防衛力に関する懇談会」（第２回会合）

議事要旨

1 日 時：平成３０年９月２１日（金）０８：００から約９０分間

2 場 所：総理大臣官邸３Ｆ南会議室

3 出席者：

・政府

谷内	正太郎	国家安全保障局長
高橋	清孝	内閣危機管理監
兼原	信克	国家安全保障局次長
前田	哲	国家安全保障局次長
河野	克俊	統合幕僚長
北村	滋	内閣情報官
鈴木	哲	外務省総合外交政策局長
槌道	明宏	防衛省防衛政策局長

・有識者：

三村	明夫	新日鐵住金株式会社名誉会長（座長）
北岡	伸一	東京大学名誉教授・独立行政法人国際協力機構理事長（座長代理）
青井	千由紀	東京大学大学院教授
岩崎	茂	A N Aホールディングス株式会社常勤顧問（前統合幕僚長）
加藤	良三	元駐米大使
黒江	哲郎	三井住友海上火災保険株式会社顧問・国家安全保障参与（元防衛事務次官）
坂元	一哉	大阪大学大学院教授
土屋	大洋	慶應義塾大学大学院教授
三浦	瑠麗	東京大学講師

4 議事概要

（１）三村座長から冒頭挨拶の中で、①本日の会合では、現在の防衛大綱を策定した５年前よりも格段に速いスピードで厳しさと不確実

性を増す我が国を取り巻く安全保障環境をどう分析・評価するのか議論したい、②それを我が国の歩みについての今後の議論につなげたいといった旨の発言があった。

（２）鈴木外務省総合外交政策局長から「我が国を取り巻く外交・安全保障環境」（配布資料：資料１）について、槌道防衛省防衛政策局長から「我が国を取り巻く安全保障環境（防衛）」（配布資料：資料２）について説明した。

（３）土屋委員から「サイバーに関する安全保障上の課題」（配布資料：資料３）について概要以下の発表が行われた。

- サイバースペースの重要性は、陸、海、空、宇宙それぞれの領域をつないでいく存在であるという点。
- サイバースペースはインターネットにつながっていないものも含めて広がってきており、それが重要インフラにつながっていて、その重要インフラが狙い撃ちをされるということが大きな問題。
- IoB（Internet of Bodies；Internet of Brains）という言葉があるように、通常の作戦領域だけでなく身体や脳とつながることがこれからの課題になってきている。
- これからの様々な自動化技術が今後の作戦技術を変えていくこととなるが、その最前線にあるのがサイバーセキュリティ。
- 民間の電力供給網等の設備を守る任務は自衛隊に付与されていないが、これを誰が守るのかということが大きな課題。
- グレーゾーン事態あるいはハイブリッド戦に対応できる部隊、能力の構築を含め、防衛・反撃能力の確保が重要。
- クロスドメイン作戦への対応に当たっては、陸、海、空自の連携ということに加え、米豪との連携ということも考え、クロスドメインを大きく展開していくことが重要。

5 意見概要

委員から概要以下の発言があった。

【我が国を取り巻く安全保障環境に関する発言】

- 我が国を取り巻く安全保障環境の変化のスピードは非常に激しく、昔は10年でおこっていたことが1年、2年で変わってしまうが、このスピードについていかなければならない。
- 我が国周辺には大規模な軍事力が集中しているが、中には必ずしも我が国と同じような軍事力行使に対するためらいを感じていない国も存在する。こういったことを国民に訴えていくことが重要。
- インド、大洋州諸国・海域、ASEAN 諸国の動向も我が国の安全保障にとって重要。

【情勢認識に関する発言】

- 脅威というものは能力と意図を乗じたものといわれるが、能力は作るのに10年、20年かかるが、意図は1分で変わり得る。一方で、短期的なものではない長期的な本当の意図も含めて評価することが必要。
- 他国のレトリックをそのまま使うのではなく、日本は日本の分析やレトリックに基づいて考えることが必要で、情報の受け手又は出し手として戦略的コミュニケーションにきちんと取り組むことが重要。懸念か脅威かは簡単に分けられず、また二者択一的な捉え方は思考を制約するために陥ってはならない。
- 情勢認識をする際、相手のみならず自分の脆弱性を知るという観点も重要。自衛隊の実力は正しく評価されているところもあれば必ずしもそうではないところもある。
- 軍事の面だけで評価するのではなく、政治的、経済的評価も重要。米中関係に見られるように、経済力をもって地政学的利益を追求するというジオエコノミクスの考え方にどう対応するかが重要。我が国として、経済は経済、安全保障は安全保障だからという対応でいいのか。

- ゲームチェンジャー技術の登場により、これまでのやり方が通用しない点、また、もう一つのゲームチェンジャーとして経済、貿易と安全保障の結びつきが強まってきている点に留意が必要。

【国際社会における戦争の戦い方の変化に関する発言】

- 近年、技術の進歩や社会の急速な情報化に伴い、戦争の戦い方が、ハイブリッド戦と呼ばれる、軍事力と戦略的コミュニケーションや技術の発展により可能となった手段とを複雑かつ創造的に組み合わせたものに本質的に変化している。ハイブリッド戦は、平時と有事、軍事と民間の区別を曖昧にする戦いであり、これは我が国防衛にとって大きな挑戦。
- 我が国としての対応は、クロスドメイン、ジョイントネス、各部署とのたすき掛け的な関係の構築が重要。

【サイバーに関する発言】

- サイバー空間はエスカレーションのラダーの数が少ないので、いっどのように国が民間を守っていくのが重要。
- 政府におけるサイバー要員の確保のためには、予備役の活用その他、人材教育が必要だが、大学生からでは手遅れで、もっと早い段階からの教育、キャリアパスを考えることが必要。

【グレーゾーン事態に関する発言】

- 有事と平時の境目のあいまいさからは、グレーゾーン事態への対応がより必要。
- グレーゾーンという言葉を使う際には、それがエスカレーションの可能性を概念的に排除しないようにする考慮が必要。
- 海上自衛隊と海上保安庁の関係は近年格段に深化してきているが、現場レベルでの連携の更なる強化が重要。
- 他国において軍と法執行機関との連携が強まってきていることを

詳しく説明していくことで、我が国としても防衛省・自衛隊と海上保安庁との連携を強化していくことが重要。

【日米関係に関する発言】

- 米国が今後どのように変わっていくかを研究するとともに、日本が自ら努力することが重要。また、それが日米同盟の強化にもつながる。
- 自分の防衛に自分で立ち上がらない日本ということになった場合、それより先に体を張って日本を守る米国は想定できない。
- 米国の現政権の、紛争介入への消極的姿勢や、西側同盟諸国との関係は貿易、軍事の両面で大きな影響を及ぼしており、この状況は当面変わらないのではないか。
- 北朝鮮の核の問題について、何が起きるのかということの中長期的にきちんと見通し、日米の認識にずれが生じないようにすることが重要。

【将来の防衛力に関する発言】

- 我が国が有効なハイブリッド戦略を取るためには、サイバーセキュリティなどの分野で有効かつ機動的に全ての政府部門や民間主要部門が動ける仕組みづくり、陸、海、空自が統合された形で自衛隊が領域横断の運用をするためのフルスペクトラムの能力構築、いざという時の仲間を増やすための戦略的コミュニケーションや防衛関与による自身の能力構築が必要。
- 我が国の防衛体制につき、従来の北、南、西を重視するということだけでなく、太平洋側の重要性についても強調していくことが必要。
- ハードパワー、ソフトパワーだけでなくマンパワーも重要であり、単に人を増やすというのではなく、今ある人員の士気を高めるなど様々な施策を考えることが重要。

(以上)